

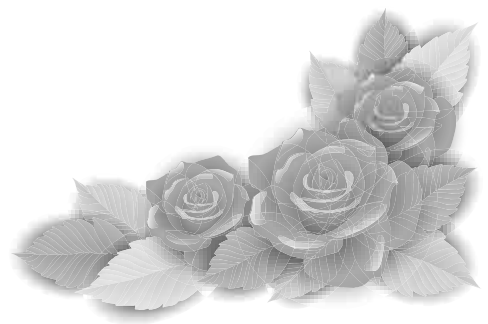


基 調 講 演

“エコ・サロン活動で 輝く元気な高齢者の地域づくりを目ざして”

松 田 正 幸 氏

(六月田下自治会会長)



皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました、出水市の六月田下の松田でございます。7つの地区の皆さん、この度は表彰おめでとうございます。

実は先程ご紹介にもありましたように、私たちもちょうど6年前の平成21年に、この場でエコ年輪18というサロン活動によって表彰を受けました。それが後押しとなり、元気を頂きました。

本日このような形で皆さんの前でお話できることを私自身もうれしく思っております。7つの地区の皆さん、どうぞ頑張ってくださいと思います。

それでは、エコ・サロンこの二つの活動で、非常に元気な高齢者の地域づくりについてのお話をさせていただきます。

皆さん、もう既に感じていらっしゃると思いますが、地球温暖化に起因すると思われる異常気象による災害がいろいろな場所でいろいろな形で発生しています。

その深刻さは重大でありまして、私たちが今の状態を続けると、私たちの孫・未来の子供たちが危機に直面するとの考えから、このことを身近な人々に伝えたいとの思いで平成18年から自治会でエコ活動に取り組みました。

平成20年から自治会全体でCO2ガスを年間で10%以上削減、また、電気と水とガスの光熱費を1世帯あたり毎年6万円以上削減するというのを、今日現在まで続けてきています。

また、私たちの自治会では、平成18年は高齢化率が38%でしたが、今日現在45%と急激に高齢化率が高くなっていますので、高齢者が家に閉じこもりがちになることを打破するため、みんなで楽しみながらエコねんりん18を導入したわけです。

ねんりんのように活動を積み重ねていこうという願いも込めてやっています。

今日は、地球温暖化ガスの現状どうなっているんだろうか、ということ。そして、楽しみながら1世帯あたり1年間に6万円、私自身は約9万円から10万円浮かせてる。辛抱とか我慢とかいうことでなく、楽しみながら光熱費を削減できるそういうエコ活動とはどのようなものだろうかという話と、サロン活動の実例を皆さんにご紹介しようと思います。

サロン活動で今年の8月から新しく健康運動を取り入れました。この体操の効果を実感していますので、たった5分でできるその体操を実際皆さんと一緒に実践して、みなさんに持ち帰っていただきたいと思います。

私たちの六月田下というところは、鹿児島県と熊本県の県境の出水市にあります。今、鶴がどんどん飛んできていまして、昨日現在約2,000羽くらい飛来してきています。夕べは

夜遅く上空を飛んでいたようで、夜中の12時近くまで鶴が鳴いていました。

鶴が毎年1万羽以上、17年間出水市で越冬しているそうです。出水市は薩摩藩で一番大きな外城のある武家屋敷群がごぞいます。このように、鶴と歴史のある出水市に私たちの自治会がごぞいます。世帯数は56戸、人員が166人、高齢化率は45.8%です。

私たちの自治会では、会長、有志と呼んでいますが副会長、体育部長、他の自治会にはない環境部長もおります。それから4班あります。そのほか、婦人会・防災班・子供会・長寿会という形で運営している自治会です。

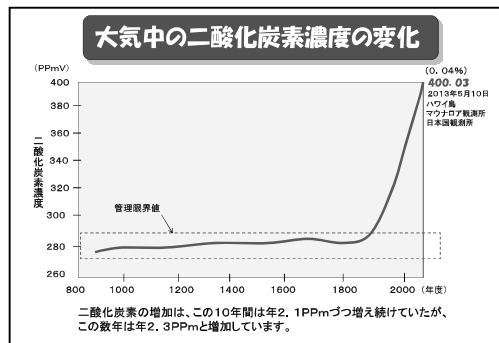
早速、地球温暖化、温暖化ガス・二酸化炭素ガスがどうなっているんだろう、地球全体でどうなっているかをお話ししたいと思います。

実は、地球は二酸化炭素ガスを地球自体が自然に吸収できる能力を年間110億トンもっているそうです。海や森林が自然に吸収してくれる量ですね。

しかし、人間活動による排出量が毎年295億トンあるそうです。

それで吸収しきれない量が毎年185億トンずつ増え続けている。それが実情だそうです。

このグラフをご覧ください。



これは実は、大気中にある二酸化炭素ガスの濃度を表したグラフです。

(西暦) 800年から1900年までは管理限界値の中を保っていました。

それが2000年ちょっと前から、限界値を超えてしまっている。とうとう2013年に400PPMまで

になったということです。この4～5年は年間2.3PPMずつ増えているそうです。

地球の温度上昇を2度に抑えようということで、2010年メキシコのカンクンで開催された国際会議コップ16では、「地球の気温の上昇を2度未満に抑えましょう」と190カ国の国々が合意しました。

しかし、どのように減らそうかという話になると、なかなかまとまりませんが、気温上昇を抑えるということにおいては、世界の国々は理解をしています。

二酸化炭素ガス濃度が450PPMになるときに、世界の気温が2度上昇するそうです。

今のままでいくと、計算上は2030年くらいに2度上昇するのは間違いありません。

あの産業革命から今日現在まで、地球の温度は0.8度しか上昇していません。

たった2度の上昇とおっしゃるかもしれませんが、これは大変なことなんです。

この地球温暖化に対して、「IPCC」聞かれたことがあると思いますが、気候変動に関する政府間パネルという機構がありまして、世界の科学者が論文を出している。

その論文をチェックして、去年やっと第5次の評価ができました。

「IPCC」というのは、世界気象機関と国連環境計画が合体して総会を開いています。

気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change、略称：IPCC）は、国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構である。国際連合環境計画（United Nations Environment Programme：UNEP）と国際連合の専門機関にあたる世界気象機関（World Meteorological Organization：WMO）が1988年に共同で設立。

その結果どういう報告を出したかという、去年の9月に全体の結果報告では、「確実に地球温暖化は化石燃料が原因で、石炭に起因するところが大きい」というものでした。

「このままいくと2100年には4度の気温上昇が予測される。」そうになると取り返しがつきません。

つい先日、アメリカでハリケーンが発生しました。秒速100メートルのハリケーンでした。台風ですね。

そういう状態が毎年毎年起こる状況になるんです。そこで気温上昇を2度未満に抑える、もちろんそれでも影響はあります。各国の政策担当者にこの報告書が届いています。でも、世界は動きません。

皆さん、最近感じているでしょ。鹿児島も竜巻情報が出ていますよね。5年前、6年前はそんな警報はなかったですよ。気象庁のこの呼びかけ、皆さん覚えていますか、平成24年の九州北部の豪雨。阿蘇で予報が出たときはもう雨戸が開けられんごとなつた、川んごとなつとつた。「これまで経験したことのないような大雨」が降るから注意しましょう。

それで平成25年から特別警報に変わりました。

どんな表現かといいますと、「命を守る行動をとってください。」

それほどゲリラ豪雨は局地的に雨が降り始める。

去年は沖縄、今年は皆さんご存知の、先月茨城県の常総市にものすごい雨が降りました。記録的な雨が降り、堤防が決壊して、今日現在もまだ避難生活が続いています。

災害はどこで起こるか分からない、どこで起こってもおかしくない。出水で起こっても、鹿児島で起こってもおかしくない。そんな状況なんです。これからどんどん、状況は悪くなっていきます。

「地球温暖化、そんなもの関係なか」とおっしゃる方もいますが、大変なことが起きつつあるんです。

だから私は平成18年に小さな集落で、「（エコ活動を）やっど」と、呼びかけましたが、

当時はみんな振り向きもしないわけです。

では、エコ活動についてご紹介したいと思います。

私は平成18年に自治会長を引き受けました。それまでは会社勤めでした、地域に全然入っていませんでした。そして平成18年にエコ活動をやろうといっても、「エコてないな」、「われわれには地球温暖化ガスなんて、そげんことは全然関係なか」、「そんなことは自治会でとりあげる問題じゃなか」、「そんなことは行政にまかせておけ」、「わいがいうごと、わが家にはいっちょん無駄なんかなか」、「年やっで、何も辛抱せんでもよかせん」と。

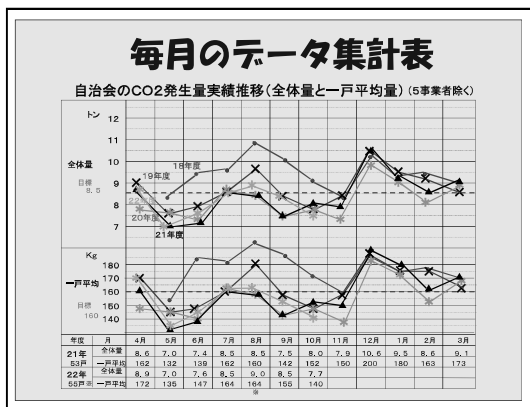
一年目はみんなの関心が非常に低くて、苦労しました。

じゃあどうしようかと思って、とにかく1年目はみんながわかるような、目に見えるものにしよう。現状を把握して、データで目に見えるようにしようと思いました。

そして「みんなは、なんもせんでよか。」と、「そのかわり毎月の九州電力の伝票、市からの水道の伝票、ガス屋さんの伝票をおいがとこに提出してくれ。」と、お願いしました。

それでいいならと、みんながこの3つを提出してくれました。

それで、データを集計しました。集計用のシートを作って、「電気・水道・ガス」この3つのわかりやすいものでやろうと、配布と回収は班長さんにおまかせして、排出量の集計は推進者の会長（私）がするからと、集計していき



このようなグラフができました。

このグラフは、うちの自治会の年間を通じたCO2ガスの発生状況です。

これを見ると「あら、夏場と冬場が上がっとなね」となりました。データがあればみんな理解する

わけですね。やっと2年目から、「なんとかせんばいかん」と、意識改革ですね。まずは改善事例で説明しないとイケません。そして何よりエコ活動が楽しい活動でないと長続きしないわけですね。

そこで、お父さんのチェックリスト、お母さんのチェックリスト、わが家の温暖化ガス削減の確認票。これを毎月配布していました。

「こげん面倒かこと、すつとや。」「でもしやん。」と頑張ってもらいました。

私は推進者ですから、その年に我が家自身も改善しました。

そしてまず、みんなに我が家の改善事例を見てもらう。その改善事例で証明しました。

この写真にありますように、天井の照明は半分取りましたよ。



水道、それからグリーンカーテンも作って、実際に見てもらいました。

各家庭に目標を定めました。10%削減の目標です。

その目標を3ヶ月連続で達成した家庭を「エコ達人」と認定する制度を作って、その家庭を訪問して夫婦の記念写真を撮って額縁に入れてプレゼントしました。

夫婦2人で写真撮るなんて何十年ぶりかと喜んでもらえました。

そうすると「あそこは達成したんだってよ」「じゃあ、うちもやろはん」

あなたは3ヶ月（連続削減を）達成しましたよ。ご苦労様ということです。

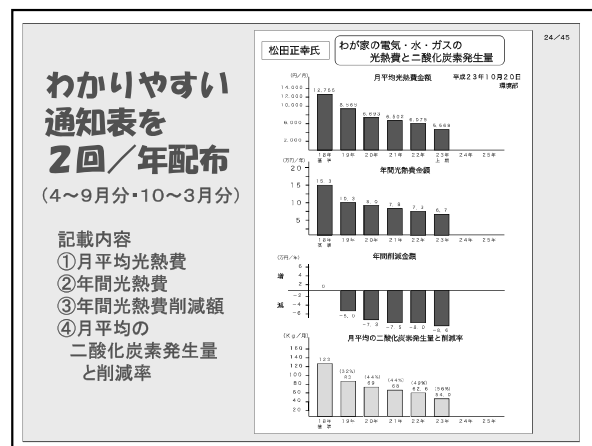
そして年に2回は光熱費のわかりやすい通知表を各家庭に出しました。

光熱費や二酸化炭素の削減量、各家庭に配りました。

それを見れば、「うちこんなに使ったや」と分かるんですね。

そして「エコねんりん18」活動もこの年に導入しました。楽しくやろうよと。

「エコねんりん18」とはサロン活動で、高齢者の健康と生きがいつくりやケナフ栽培を



通した人づくり、楽しく温もりのある地域づくりを目指して、みんな集まれと。週に1回のサロン活動です。地域に高齢者の一人暮らしの方が6人いました。高齢者の一人暮らしの人をみんなで見守ろうよ。

みんなで楽しくグラウンド・ゴルフ、映画鑑賞や脳活性化トレーニングをしようよ、ということで、サロンをたちあげました。

その時に、出水市の社会福祉協議会にもものすごくお世話になりました。まわりのフォローがあってサロンができました。

自治会の中ではエコ活動が浸透してきました。生活の質を落とさない、具体的な省エネ。その無駄に気づくことが私たちの活動です。